

暮らし

気の「リント

◇45◇



徳島大学病院アンチエイジング医療センター

栗飯原 賢一

高齢化を反映して、日本人の死因のトップは「がん」となっていますが、2位と3位はそれぞれ心疾患と脳血管疾患です。この心疾患と脳血管疾患はいずれも動脈硬化症を背景とする病気で、単一の症候群として「メタボリックシンドローム」が中心となる方はほぼ同数になります。

動脈硬化を診る

従って、医師の診察を受けて「あなたには動脈硬化があります」と言われた場合、「がん宣告」と同様、その進行予防に努めないと寿命を縮めてしまふことになりまふ。

さて、動脈硬化を起してしまふ原因について考えてみましょう。もちろん、誰しも年を取ることで動脈硬化症になってしまふことが、その程度には大きな個人差があります。動脈硬化を進めようとする要素としては喫煙があり、病氣としては肥満や糖尿病、脂質異常症などが挙げられます。

動脈硬化の有無については、どのようかに判断したら良いのでしょうか。実は、高血圧も動脈硬化所見の現れであると言えます。日本ではおおよそ3千万〜4千万人も高血圧症の患者がいると考えられています。循環器領域最大の疾患と言っても良いでしょう。

医師に診てもらった場合は、最高血圧が140/90mmHg、あるいは最低血圧90mmHg以上が高血圧の基準になります。家庭ではそれぞれ、135/85mmHg、85mmHgを超えると血圧が高いと判断されます。血圧の管理はとても重要で、最高血圧を5mmHg低下させただけで、国内で年間2万人の死亡者数を減らせることが分かっています。

最近では、血圧測定は家庭でも容易に行うことができ、自

被ばくせず体に負担少なく

分の血管の状態を把握するのに有用です。では、脳梗塞や心筋梗塞を起してしまふ前に、さらに詳しく動脈硬化の有無について調べるためにはどのような方法が良いのでしょうか。

もちろん、CT検査やMRI検査、血管や心臓・脳伝播速度検査、早期の動脈硬化を調べる「血管内皮機能検査」、動脈硬化の変化する超音波で調べる「頸動脈エコー検査」の三つを大

当院のアンチエイジング医療センターでは、比較的大きな動脈の詰まりの有無や血管の硬さが分かる「脈波」の状態を調べる「血管内皮機能検査」、動脈硬化の変化する超音波で調べる「頸動脈エコー検査」の三つを大

きな柱として使用しています。早期の動脈硬化性変化の発見とメタボリックシンドローム予防を目的として行っている検査です。

これらはいずれも被ばくせず、造影剤も使用しませんが、身体的負担もありません。また、非常に感度の高い検査ですから、早期の動脈硬化性変化の検出に優れています。さらに、動脈硬化進展予防薬の治療効果の判定にも効果を挙げています。



早期の動脈硬化を調べる血管内皮機能検査
徳島大学病院

これらの検査を組み合わせて、より早期の段階で血管の老化や障害の程度を把握し、適切な動脈硬化予防や治療を行うことが、心臓血管病による死亡率を減らし、寝たきりや認知症の進行を遅らせることに力を発揮してくれまふ。

また、この個々の血管機能検査は、高血圧症や糖尿病、高脂血症などの心血管リスクを有している通院・入院患者に対し、医師が必要と判断すれば保険診療対象として検査可能です。

メタボリックシンドローム検査に関する内容は、当院までお問い合わせください。

早期段階二つの検査法